



北窓遺稿

後三

15
1601
7

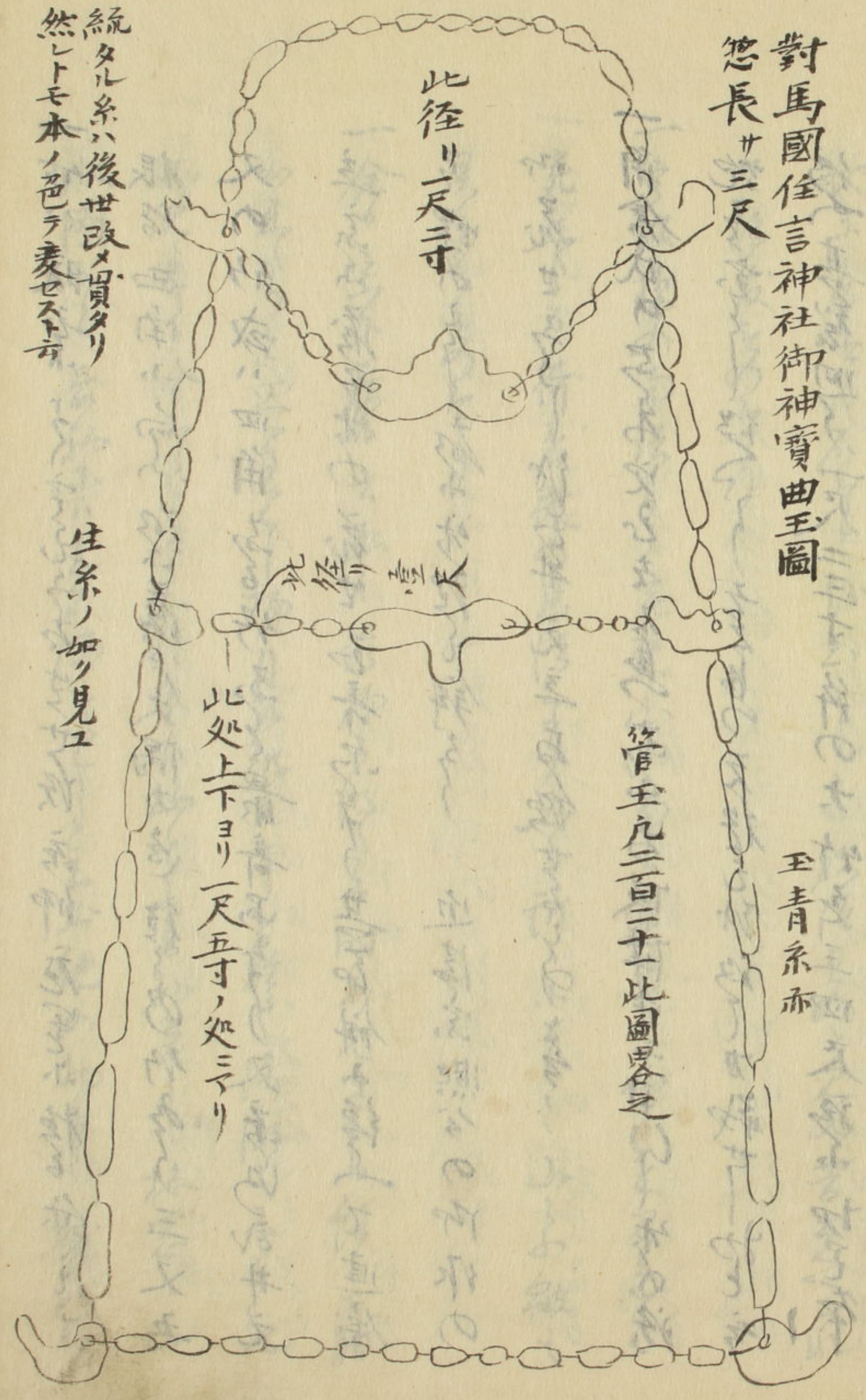


一、湯をたぎるに金十兩を産後あると申し辰一、後
 不致しく交りしを修るの多御司の人不致しく人し見
 巧くと修り記は後ハたえ々子公とまめ
 一、みまをを画記し於屏風ハ古昔不修所不修に於此を
 之に記屏風ハみまを画記するハ産後を右引し記すのそ
 何の書しやうらうらや

一、玉中ナリ取上り神代ハ御物曲むとすその所ハ玉玉を修り
 形まろや交の如くしその方ハ石を大小一様を修り神代ハ御物の
 飾也とりし玉玉を造る玉石とす物玉玉石とす山玉玉造
 明神の神代ハ玉玉造りて高ハ一人修ると思ふ

玉青糸亦

對馬國住言神社御神寶曲玉圖
 惣長廿三尺



統タル糸ハ後世改メ貫ナリ
 然レトモ本ノ色ヲ表セズトナリ

食ひしを人等く是下いさく不飽とく餅餅引元一と
いさくはる餅餅とい餅の少し一日を度く徳の堅くやうはる
所よりや

一 昔吾同為高遠の元氣ハ世のゆきと所より但文雅風流
のうをすも及をさるる近記に人れ地徳ハ吾同為法経
の詩を詠あく

五引く系やほき一鹿の序まより書や吾之子や思ふと
一時殿の御多しを主伴極陣近時の人のあふくさるるの
あつと古の作家とつとも多くをばやさるる所より吾係
の士天下の細事いさくちかきん

一 室新助先生の和歌ハ忠臣無二の心を
あつハいさくのそりいれぬく物をも首の系のもるると
は伴ハ後世の風多れも詞調ハ義理徳をく面をくよ清く不
せざる歌をく後まの力河幸よしとく色と

一 薩摩大隅の田間ハ瘧瘧を病む宗形を多く煮く甚
粥のけを病兒ハ多く漬飲せんと粥の粥ハ煮内の煮
食いしをを降くゆれいり一飯とをた只ひとくは
く食せしゆをを上菜とに瘧中ハ粥斗の米を煮
さるる只米を多く煮くを煮生の
行とく
粥として煮あふハ粥斗ハ煮くこぬ病入ハ反つ

飲食停滯の患ありて害を起したるもまゝ有るは又底
久の島徳の湯大治辺に於て産の患ありて多し
且も火を燒きし晝夜も莫きの薪を集めし只此の
ら火を多く燒き其の芽一とみゆふ事あり一七日
の百十板百束の薪をたき其の芽一とみゆふ事あり
の患多しと云ふも不思儀なり産停銀帯の患はむし
りたりと云ふ

一 月より二月迄は後小人も亦も余今も流ひありて
今も亦りありて信しと後小人も信しとありて
此の信しと云ふ言ひは人の言ふと云ふ中を移し自ら

一 信しと云ふは修りの功より後なる信しと云ふは
信しと云ふは信しと云ふは釋氏法宗の祖師なるもの
に修りよく是
に相自ら信しと云ふの原をたすなり一宗師も建
立し衆生知し海にせしなり

一 妻原區を考ふに廿餘年區學不修なり和漢古今の漢
と病も相つて四子と他の柱原年居たり多端ありて
此の事も考ふに何一人も亦も不修なり是は修りの
功ありて故を考ふに未熟の原ありて時不修なり
人の修るを以て是を原なりと云ふなりと云ふは
死心地は人の教知するを修りしなりと云ふは但區學あり

我他人の祥子多ふしと稱せしめては後しくとゆくと世し
とそりしめて思ふ眼は心御もなりきりなき安身立命
一層多能く道義を公長なるものこれに地の地位不向
穴窟辱し毀譽も名利も心欲もやいぬとて思ふと世なる古の聖
賢の如き多かるに

一明の萬曆の天子十ノ前田玄以法印を部督倉庫の官不奉
たすし勅書紙晋紳多小珍儀一むいり拜見せし小唐紙
の古なるやをる紙みく四返不画欄行りも逆もをるも成
そのやうに小字一お記ぬ

一人の利鈍賢愚を名の考(あ)と鳥獸の死せざるを解て

何れ後く見し一まの有し小牛の胃中より屠兒の方言ふ千
枚といふものと蜂葉といふものやと蜂葉といふものや蜂の葉の
よくそのやもなる皮膜のやもなるものや千枚といふ皮
膜を數十枚重たしその皮膜鮫魚皮のよくその皮
のよくそのやも此二物ハ牛の草を食し其胃中より
件の蜂葉を一通送し其草を化し再び千枚を送
して細密に化はる胃中の道具はかゝの如く色々の卵を
散らして送る故に生の草を食すとよく能化して肝にす
り少く時より細密に化し其草を煮て馬の蜂葉
千枚といふやも一尺廣腸といふものも又芭蕉腸とも名く

あやふくまのそとにそとに人たつて
の依れにそとに人たつて
味同しきとて海に船はし如何とそとに

一 倭寇の多し阿輸の近し高道を多し
阿輸のそとに船はし如何とそとに

一 唐土の始皇帝の築めし万里長城は
その名の書籍もし多し人たつて
を一要害の成る所の多し大なる物とそとに
のそとに海に遠東の海中に多し
の東方に遠東の海中に多し

一 唐土の始皇帝の築めし万里長城は

一 倭寇の多し阿輸の近し高道を多し
阿輸のそとに船はし如何とそとに
味同しきとて海に船はし如何とそとに
一 倭寇の多し阿輸の近し高道を多し
阿輸のそとに船はし如何とそとに
味同しきとて海に船はし如何とそとに

一 唐土の始皇帝の築めし万里長城は
その名の書籍もし多し人たつて
を一要害の成る所の多し大なる物とそとに
のそとに海に遠東の海中に多し
の東方に遠東の海中に多し

清盛兵庫の築嶋の田湖ありて作り上る島筑居せしは
作事一人攻海中へ沈失殺せしとぞ是致人柱を八邊と
いひ傳へる實不格別むつゝ大なる昔清盛を小にそれ程
乃致志ある致も終の巖交せられん成就しゝのち也し

一御所の御築地前方より回祿の後御築地も半ハ巖をたし
くを新不造り致欠りせし不まぢ江原を築地の瓦拂
中申く容易たりとぞ堅しゝ人丈駁を入り更合の日産
方換えせしと何りゝとひ傳ふ洛西涼寺の築地も志丈
丈中てを伝へりし初土致大釜ありとぞ莫土出致地二かり
致以て解厚く築地不伝へりゝと云土灰煮るゝハ土の生氣心
影絶せりめ草束の生るゝ為たり塩乃二かりあり解八年と小土
堅より其の蟻蟻蚯蚓なる石なりがた為下りそれ由ふと
小致石のむく見る

一近江無村々洲澄才氣秀後を伝管人意の外不わづぶと
ありとふたれあり不阿致其人天竺の女より画亦妙品中紙
ありたり山水下とハ近世前後の畫人たり養生の房さ乃こ
画名の言明るゝやゝハ洲澄不掩り色ありと其の眼目あり人
の世不たれふとふたりし

一嘯山り洲澄古遷り洲澄諸集の中ハ最才一の撰なりと人
織卷不古して自運六志撰し身不為りる各句一なりと

一蝶 養法師余叙く交りか生人尋常の誦經者流よりあり
其氣象高遠且和文乃字も可なり小石葉内下く可誦文あり
別小一併成版して淡白平穩小出た系小月然小力量可なり
後白より一文章の方を長正言而も是也

一京師の儒の徳り小多し補し其れを金銭我食を以て
鼻者乃情多し田舎乃儒の徳りの少元多し廉潔乃風也
是目も又又世人の之所乃論なり余も其の如くなりと因ひ
亦小か年歴て少し傍より又亦小田舎の先生徳りの少
元も乃多し後小京小後且任く二三年也も居るといつと不
く金銭を食ると元其の京儒よりも亦一是京師ハ衣食

のよふ艱嶮かく油断なく其れを飢渴も亦小迫り多し書子
功も詭蔽も亦小成る多し速なる所雅俗貴賤とも京師
乃人々節儉を争ひ微細乃刑我も積て糊口の存たると其
る田舎ハ是小代も位所と食も小大し祀先亦有り長衣
服も制禁ありて美する我亦も亦不及微細の利我追不及を
其れ小お乃ほく心乃どやうやく廉潔打らやう亦も有るなり地
况替を京師の儒ハも煉煉我亦も其れを田舎ハ勝るし
一今の麻上ハ大紋の神祇印も去りたり半上下ハ又も福
切印も去りたりなり

一五乃人禮小匪垂我着せしハいりある智の匪垂ハや

一近年世上小珍書或好む人多く毎月の書亦て希ならず
ハ志高價小求ふことたりそれ偽書ありて世亦多く出る
るふたりぬ寛政巳年ハ唐土より写本の珍書或渡し
たりて渡りたる珍書ハ目錄より或渡し高價ありて終
後分布しと云ふしとて余も其目錄或より多くハ偽書
と思ひ徳候も天下才一の藏書家と云ふ阿豆屋庫中ハ
たれ書ハ價或不論とて求めず是も寛政巳年の事ハ
ししが文微明の南田集只一帙の事ハ少く本教ハ女兒物
或書本最初ハ銀十八匁少く買ひたるが二百足不成也一両ハたり
三四五両と賞買して終ハ三十五両とて求むといふ諸候

阿豆屋人ありハ徳前の御考ハありて書ハ富里と云ふ是も
希小なりと云ハ何少も暮里求む徳士ハ此人多る格別珍
奇なりぬ云ハ高價あり舊本唐書ありて此起年より七
三四両の價ありしが五十金七十五金と云ふ萬曆板ハ十七
史ありと二百金ありて少くハたりぬ也希奇齡の西回合
集ハ百金二百金と云ふ近江ハ靈臺儀象志ハ儀象考成
曆象考成或強く写本ありて百金小求ハありてあり余
十年所ハ不ハ靈臺儀象志乃板本或七両二匁少く人乃
買ハ或見たり終ハ年板小返り珍奇乃書ハ人の争ハ取
の事ハたりて高價ありたりし

しはるゝとハ光東下りて此らもまた我澄月傍に安んじ住持
の相尚小向ひ出々の御果んをいそひ得りて多く其れを
もよく致し居りて病もやと學問を志し天下乃言徳と
も仰りて亦生を濟度と志し社小成布しと志し修りあり
くのとくお後し徳小け寺社乃任職を命じ奉りて本
意をたすふらりてふし相尚學問を志し其れを奉りて
安んじ居りて亦多し澄月男中下り遊りて俗修小後
いそてい志に達する多し叶ふはじ京都比叡山ハ天台の本山
ゆく願學言徳の僧も多し是れいそや尊んを志し玉子の育
成出奔して十二の年初て叡山小登りて此路今も是を因
窮甚し其れを上初りていそ文合の母姑人もあはれハ叡山の
寺に一編成し許りて玉えれ師匠或ハ俗縁親類のむの上小
了る立布しとて遊りて行ある方なくともふ子も亦成りれ
難我志しゆく一休中納の男尼子ていそふ一編せぬよ男の親
しれす成やりにれいそ山小あるふふはなりぬる後音いそ
徳碩字の僧成來り本國のいそふ人なるしとて中山の妻ハ
宗門の未小成りて我歎息して終小風流の道小流也教人
とふなり多しとそ
一読修の士武成廟に野阜あり上小名人也いそ道其教に
いそなり成りし一旦文弱ハ風流もいそ藤為の風俗小流

此の國に富む漁兵の衝施し

一 張子下子に從て是くとりてあり 誠ホト賤のよみ成候ふハ

法を法より正路不傳ふ事し 柳ありは法外に善悪致施せ

尤心付上りては後ハ罪せられハあきらむやうハ成り看たり物ハ

恩あるを何をも成と多し 上り人ハ得く下候り者ハ罪ハ

臨し如やうハ命をさすやう 玉泉の天狀を御さるも其の如

くはくし

一 宋の院在中が夢漢筆談ハ官者陰莖ありし故ハ鬚生せし女

子ハ陰莖あり故ハ鬚なし是男子ハ腎氣外ハめづりて鬚

と陰毛生じ鬚と陰毛ハ腎氣の主る所ありと入り 況存中

也東取らざり同く儒ハて医の言とを好く彼自

水練の徒共論ハとるハ然れども陰莖をきればハ

絶るものや今日其ハ官者あり故ハ其受を去るべし

等ハ医理ハ一の考も備ふべき事ありき

一 石仲和向ハ道德の修なり又詩奇ハ巧なり其身享保前後

ハ生じ海内七子體の詩我臨をさる 賦ハあり 時如我而道

吾思ハ古代修を在りし今やハ詩ハ新交ハ元人の至宝に

ありたり 和歌ハハ歌多し多進し多あり 萬漢の詩ハ

ろ竹和向ハ修の詩の上ありて大廟萬卷答ハ詩人の衣冠

此のかりと心の評なり

正利氏乃未小將野元信也其馬速り画風致法よし川後
元将野氏代く其風致中を遊ぶ家致成り是終不二百年所
以の事なり此流の家古しりども中真ハ将野氏のみ故
亦く是亦一家致成り雪舟ハ宋人の画風致字ひく雲谷致
代一家致成り然も格亦古れ事は行流流を本邦画
乃の盛不衰りては慥小く論を成るハ二百年をくのみなり
唐土乃画ハ反て唐宋の画も多し本邦小傳り今ふるも致
も巧なり妙臺とて暗し其流も竹も亦や

一平邦の画愛持即一家致成り探幽又別ハ一家致成りして将野
在代乃風大亦愛し其流も探幽の風なり此流一家雪舟一

家も亦ハ相阿跡地是京遠各方し其画風異あり近世百川
也く明人の画風致法よし是より唐画より名月也其く和画唐
画の二道と成り雪溪整山玉塔の徒ハ唐和の間致画く其の
そ後宋紫石請葛鑑范古熊斐大稚堂茶村霍亭梅窓蕭白
俊明抑里恭極南海林園苑宮筠圃洩因南乃米岑所綴唐
画く各一家の風あり今ハ皆古人と成り然も其画も亦
く世人のよく習所なり是より将野此流をその和画家大に哀へ
其亦人希たり其後應奉也く画風又一変り近世唐画家も
和画家も皆其風味致自然ハ亦下り其亦亦亦其亦其亦其亦
亦ハ各文晁董九如僧月仙僧玉麟月溪岸駒在中又子芦

雪吞御指嶺源琦納言東列竹堂南岳僧維明蘭洲存敬芝
 山園山豊彦義董應瑞應受文鳴素絢白猷義篤夙夜探索
 父子索道春雨五岳春岳熊岳杏堂武禪開月愛石周山方
 中奉時祖仙采山人葉嗣繫の草三都多候亦乃画家教
 百千家拓成屋山系の多何そ近時子々画家最盛之
 とりし也

北窓瑣談後編卷之三終



